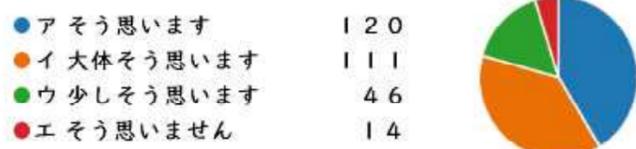
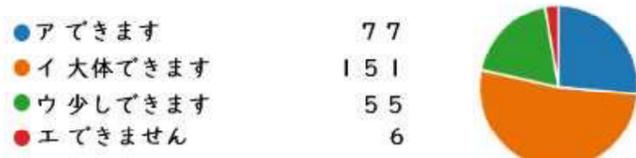


令和3年度 吉浜小学校4～6年（291名分）こどもアンケート結果 まとめ

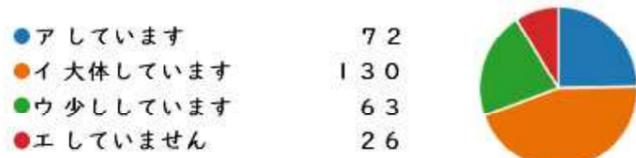
1【主体性1】授業の中で考えたい、話し合いたい、もっと学びたいと思いますか



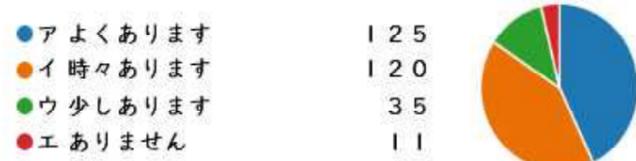
2【主体性2】問題や課題に出会った時、自分から「解決策」を考えてがんばることが出来ますか



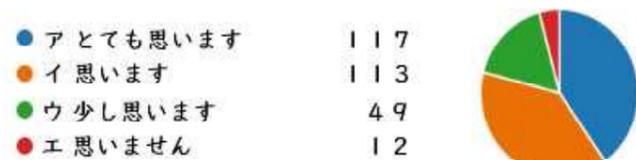
3【対話1】本を読んで著者の考えや登場人物の考えを理解したり、取り入れたり調べたり、自分と比べたりしていますか



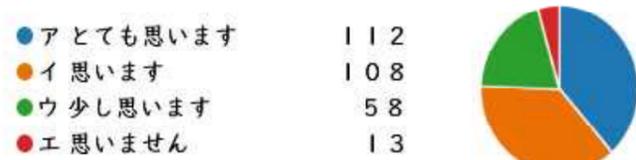
4【対話2】考えを周りの人と伝え合うことで新しい考えに気づくことがありますか



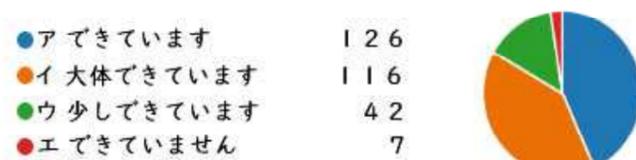
5【深い学び1】各教科を学ぶ中で自分のこれまでの見方や考え方は大きく変わった（成長した）と思いますか



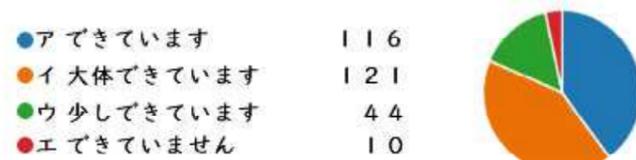
6【深い学び2】学習したことを復習したり、自分で調べたりして、もっと分かるようになりたいと思いますか



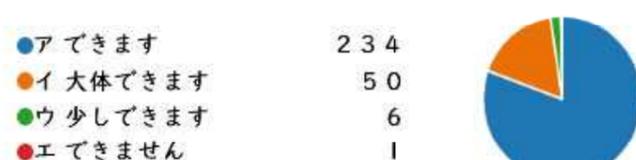
7【学級力1】あなたの学級ではだれもが安心して意見を交流することができていますか



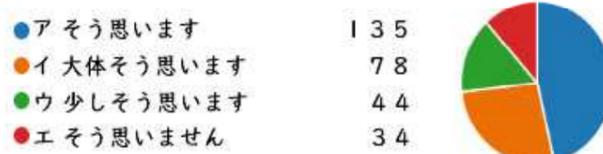
8【学級力2】あなたの学級では学級をよくするために課題を見つたり、解決策を考えたり、行動したりしていると思いますか



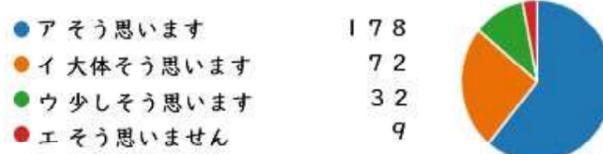
9【自分1】「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」「ありがとうございます」「ごめんなさい」など様々なあいさつができますか



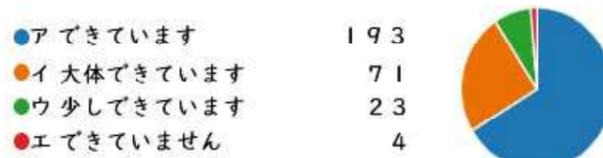
10【自分2】自分で自分のことを大切な存在だ、自分にはよいところがあると思いますか



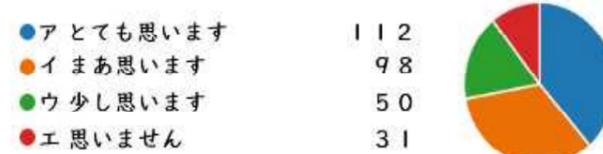
11【自分3】この先自分は成長してたくさんを知ったりできるようになりたいと思いますか



12【地域1】地域の人に感謝したりあいさつしたりすることができますか



13【地域2】地域のお祭りや行事などに参加しようと思いますか



【分析】

「問い1」の円グラフをご覧ください。学校経営方針5本柱のうちの一つ「児童の主体的な学び」に関連するアンケート結果です。青の部分は41%、オレンジは38%です。青とオレンジ合わせて79%の児童が主体的に学んでいると考えていることが分かります。ある児童の感想には国語の授業の「走れ！」が分かりやすくおもしろい、との言葉がありました。この「走れ！」の授業では教材研究の成果をタブレットの教材ソフト「ロイロノート」に落とし、教員間で共有して授業を進めました。その結果「授業力の向上」が見られ、児童のわかりやすさや面白さにつながったのだと考えられます。ただ目標は80%以上なのでもう少し授業力を向上させ、学ぶ楽しさを実感させたいところです。

また、赤で示されている部分は「学びたいとは思わない」と答えている児童です。現地点で14人います。5年生が3人、6年生が11人です。クラス別の人数も分かれますのでこれをもとに、原因を分析し改善策を立てています。

「問5・問い7・問8」の結果をご覧ください。よく似た傾向です。「深い学び」は「自分の考え」を表現できる環境に宿ることが分かります。「対話」を重ねることで、自分の殻を打ち破るような感動体験が味わえる学級を目指し、児童の成長を促したいと考えています。

12月のアンケートでは向上した結果が得られるようにし、評価委員の皆様からご評価いただきたいと思っています。

令和3年度 吉浜小学校 教員（32名分）アンケート結果 まとめ【前期】

【授業力向上1】 児童が問題意識をもつように適切な発問をしている

● はい 31
● いいえ 1

【授業力向上2】 児童が考えを深めたり思考を整理したりできるように板書をしている

● はい 21
● いいえ 11

【授業力向上3】 児童の課題追究を支える環境を構成している

● はい 27
● いいえ 5

【授業力向上4】 児童が考えを深めたり思考を整理したりできる授業や単元を構想し、実践を積み重ねている

● はい 20
● いいえ 12

【授業力向上5】 児童の課題追究を支える意図的な環境の構成をしている

● はい 21
● いいえ 11

【授業力向上6】 高い専門性を基に、周りにある教育資産や新しい指導方法を効果的に取り入れて授業や単元を構想している

● はい 7
● いいえ 25

【授業力向上7】 他の教員の模範となる授業実践や単元構想をしている

● はい 4
● いいえ 28

【授業力向上8】 児童の課題追究を支えたり引き出したりする意図的な環境の構成をしている

● はい 16
● いいえ 16

【指導力・マネジメント力(学級・学年経営)1】
児童同士のコミュニケーションを促進すると共に、個の特性を的確に捉えている

● はい 28
● いいえ 4

【指導力・マネジメント力(学級・学年経営)2】
学年経営や学校運営に積極的に参画し、課題解決を図っている

● はい 22
● いいえ 10

【指導力・マネジメント力(学級・学年経営)3】
他の教員の学級・学年経営に適切な支援・助言を行っている

● はい 11
● いいえ 21

【指導力・マネジメント力(地域の素材活用と連携)】
地域に向けて地域学習について情報発信するとともに地域資源の活用を促進している

● はい 10
● いいえ 22

【分析】

【授業力向上3・5・8】をご覧ください。**【3】**では27人の教員が「はい」と答えていますが、**【意図的な環境の構成】**という言葉が入る**【5】**では6人減り21人、**【8】**の課題追究を支えたり引き出したりする意図的な環境はさらに5人減少し16人の教員が「はい」と答えるにとどまっています。

児童の意欲を引き出す意図的な環境構成には様々ありますがここでは教員の教科横断的な視点に焦点をあてます。

例えば「算数（割合）」「社会（地図・工業地帯の産業内容）」「総合（防犯）」を結びつけた完成事例があります。

割合を示す円グラフや帯グラフ作成の学習（算数）と関連し、社会で工業地帯の産業内容を示す帯グラフ【左図】に注目させ、これは割合のみを表すグラフだと示しました。

そして空き単の現実（総合）を可視化するためには、「割合と量を同時に示すグラフ」「地図と量を同時に示すグラフ」が必要なことを実感させるため上記赤線のグラフを掲示しました。それにより「人の感情に訴える戦略的なグラフの活用」への探究心につながりました。

このような授業をつくるには、深い教材研究が必要です。教員間で何度も話し合い、よりよい授業をつくりあげていきたいです。後期は愛知教育大学の加納 誠司先生に教えを受け、生活科単元を教員全員で参観し学び合う全体授業を行います。

また、授業では板書が大きな力を発揮します。今年度は、主題研究で愛知教育大学の磯部征尊先生を講師に招き「四色板書」の研修を受けました。全教員が授業公開を行い、課題解決学習を実施し授業力を磨いているところです。

続いて**【授業力1】**と**【指導力・マネジメント力(学級・学年経営)1】**をご覧ください。これらから多くの教員がしっかり児童に向き合っていることが分かります。ただ**【働き方改革1】**と**【指導力・マネジメント力(学級・学年経営)3】**の結果から教員間では、対話力を意識していく必要があると感じました。

最後に**【地域力】**では、これまで積み重ねた地域素材活用に加え、ICTを活用した情報発信の模索に力を入れたいと思います。

【働き方改革1】 質の高い教育と長時間労働是正のため、周りの人の業務を効果的に行う策を考えている

● はい 20
● いいえ 12

【働き方改革2】 先を見通し多忙化解消に近づくために何らかの改善策を実施している

● はい 22
● いいえ 10